

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「かけがえのない命を守るために」

愛媛県 愛南町立柏小学校 6年 木口 かづき

ぼくの住んでいる柏地区は、海に近く、南海トラフ巨大地震が起きたら、校区で一番早く津波が来ると言われています。そのため、津波に備えることはとても大事ですが、ぼくたちの地域には、もう一つ大きな心配があります。それは土砂災害です。

柏地区には、山のしゃ面や川が多く、土石流警かい区域やがけくずれが起きやすい区域に指定されている場所がたくさんあります。大雨や大きなゆれのとき、山の石がきがくずれてしまうのではないかと、とても不安になります。実さいに地域探検で山の道を歩いたとき、石がきを見て、大きな地しがんが来たらくずれるかもしれないと思いました。

そんなぼくたちを守ってくれているのが、砂防ダムです。柏地区には二段にわたって砂防ダムがあり、山から流れてくる土や石、大きな木を止めて、地区を守ってくれています。ぼくたちの学校では、県庁や土木事務所の方に来ていただき、砂防学習会を行うことがあります。模型や3Dシアターを使った学習を通して、砂防ダムの仕組や大切さを学ぶことができています。

土木事務所の方からは、ドローンでとった砂防ダムの映像を見せていただいたこともあります。ふ段は見ることのできない角度から自分たちの地区を守るダムの姿を見ることができました。そのとき、このダムがあるからぼくたちの家は守られているんだと強く感じました。祖父も、

「ダムができてからは、少し安心できた。」

と話していました。大雨のときに川の水が増えても、思ったほどにごっていなければ、ダムが土砂を止めてくれているからだと思います。

でも、砂防ダムがあるからといって、安心しすぎてはいけません。ぼくの家の裏山はコンクリートで固められていますが、水ぬき穴からにごった水が出てきたら、すぐにひ難するようにと言われています。また、地区にある内海支所は、風水害のときの一時ひ難場所になっていて、もしものときは、防災無線でひ難の呼びかけがあるそうです。だから、家族と「どこへ逃げるか」「どうやって逃げるか」を話し合っておくことが、命を守るために大切なことです。

ぼくたちは地域探検の後、「防災マップ」を作りました。土砂災害については、危ない区域を黄色や赤のセロファンではりつけ、だれが見ても分かりやすいようにしました。みんなで協力して作ったマップを見て、地域の人の役に立つことができたかなと思いました。

防災学習を通して分かったのは、「自然災害は必ず起る」ということです。津波も土砂災害も、人の力で止めることはできません。でも、被害を小さくするためにできることは、たくさんあります。砂防ダムのようなし設を整えることも大事ですが、ぼくたち一人一人が「もしもの時にどう行動するか」を考えておくことが、一番大切なことだと思います。

ぼくは、防災学習を通して、ぼくたち子どもにもできることがあることに気づきました。それは、学んだことを家族や地域の人に伝えることです。雨が強くなったら早めに逃げようとか、川や山の様子に気をつけようと声をかけ合うだけでも、災害に対する気持ちは高まります。また、家で防災バックを用意したり、防災倉庫にどんな物があったらよいか考えたりすることもできます。

近いしょう来、大きな地しがんや大雨が必ずやって来ます。そのときに柏地区のみんなが無事でいられるように、砂防ダムを大切にしながら、地域で支え合い、備えていきたいです。そして、土砂災害からも津波からも、かけがえのない命を守るように、これからもしっかり学び、行動ていきたいと思います。